



平成30年度全国剣道指導者研修会（九州ブロック・佐賀県）

平成30年度全国剣道指導者研修会・九州ブロック・佐賀県（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本中学校剣道連盟、主管＝佐賀県学校剣道連盟）は、10月13、14日の2日間、佐賀県総合体育館で中学校保健体育科教員18名を含む76名が参加して行われた。本事業は平成24年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実に向けて、剣道の授業が効果的に展開されるよう、全国9ブロックのうち、毎年5ブロックで開催されている。今回は本年度最初の研修会となった。

□1日目（10月13日）

開講式では、はじめに松尾貴之日本武道館振興課長が「中学校保健体育科授業において、剣道の実施率が約8割を占めている佐賀県で開催できることは大変意義深い。全国各地における武道授業のさらなる充実に向け、効果が上がる授業が展開できるよう指導計画、指導法を学んでいただき、剣道の理解をさらに深め、現場での指導に役立てていただきたい」と挨拶。

続いて、網代忠宏全日本剣道連盟常任理事が挨拶に立ち、「武道必修化8年目を迎え、剣道の採用は約3割。全日本剣道連盟では、さらに充実した剣道授業実施のため、授業協力者や社会体育指導者に協力を得られるよう力を入れて取り組んでいる。2日間の過密スケジ

ュールだが、先生方の指導の参考にしていただき、実のある研修会にしていただきたい」と述べた。

主管県からは井上正一郎佐賀県剣道連盟・佐賀県学校剣道連盟会長が「全国各地より素晴らしい講師の先生方にお集まりいただいた。褒める指導を大事にして、子供たちに剣道の技術とともに人間形成に繋がる剣道の指導をしていただきたい。本研修会で学んだことを自分のものにして、子供たちに伝えられることを期待します」と歓迎の言葉を述べた。

開講式終了後、山田博子講師による次期学習指導要領改訂について講義が行われた。特に、新学習指導要領の変更点や武道種目の採用方法についての詳しい解説がなされた。

次に、有田祐二講師が安全指導の講義を行った。部活動における死亡事故・重度の障害事故の発生率から、剣道は安全であることが示され、安全な授業を行うためにも竹刀や防具の点検など、安全管理が重要であると述べた。

次に、花澤博夫講師による体罰・暴力によらない指導について講義が行われた。文部科学省の報告によると、50代以上のベテラン教師による体罰が多いという事実が紹介された。また、体罰をするということは、教員として指導力がないことを示し、教育のプロとし

て恥ずべき行為であると説いた。

その後、<sup>のうどみ</sup>納富 宜彦<sup>とうげんしやうしや</sup>多久市立 東原<sup>とうげんしやうしや</sup>彦彦 東部校教諭による剣道授業実践例の発表が行われた。納富教諭は剣道経験はないが、教員 2 年目に剣道授業の講習会に参加し初段を取得。現在の学校では柔道を採用しているが、前任校などで剣道の授業を 6 年間行った。じゃんけんどうや新聞紙刀での打ち合い、日本剣道形やトップレベルの試合などの動画を見せて剣道のイメージをつかませるなど、生徒たちの意欲を高める工夫を凝らした指導法が報告された。

午後は、<sup>かるこめ</sup>軽米 満世講師が剣道の歴史と特性について説明を行った後、山神眞一講師より動機づけの実技が行われた。楽しむだけではなく、剣道に繋がる動きであることを意識しながら行うことの重要性が強調された。その後、有田講師により新聞紙切り、ボール打ちが実践された。新聞紙切りでは、床を傷つけないように床に面を置いて防ぐなど竹刀が当たらないように注意を払う安全指導があった。



手刀で打ち方、打たせ方

さらに、軽米講師による「武道的素養を培う動きづくり」が行われ、すり足や踏み込み足の練習では、ウォーミングアップにもなるため、運動量の確保にもつながるとの説明があった。

次に、「木刀による剣道基本技稽古法（以下、木刀基本）」に移り、網代講師より防具がなくてもできるのが特徴で、パイプとスポンジで作られた簡易竹刀や「いたく竹刀」などの代用品も紹介された。ただし、本物の木刀では、すりあげ技や返し技のときに音が出て、響きが生徒のやる気や関心を引き出すことに繋がると説明した。続いて、仮屋達彦講師が木刀基本 1～5 本目を示範しながら指導上の注意を解説した。その後、神崎浩講師より、一斉指導の際の注意点が説明された。

班別に分かれて、木刀基本の課題を克服するための

段階的練習が討議され、引き続き、剣道の授業づくりにおける課題の研究協議を行った。「剣道授業の現状と課題」をテーマにグループに分かれて協議し、剣道具の着脱に時間がかかることや剣道具の管理、剣道の堅いイメージなどが課題として挙げられた。それに対し、導入部分で剣道の動画や道着袴を着る体験、基礎的な技術が取り入れられたゲームの導入、<sup>ひも</sup>面紐を結びやすいように短くしておく、など様々な意見が出された。

## □2 日目（10 月 14 日）

防具のない授業例として、花澤講師より竹刀の持ち方、素振りの指導、仮屋講師より打ち方、打たせ方、有田講師より段階的な指導の解説が行われた。打つ方はしっかり発声をし、打たせる方は、打っている人が正しくまっすぐ打っているかチェックするようにポイントが示された。

続いて、佐藤義則講師による「リズム剣道」の紹介があり、音楽に合わせて打突練習を行った。「リズム剣道」は音楽を用いることで、子供たちの興味を引くことに加えて、楽しく反復練習ができ、正しい技能の定着、また机間指導、個別指導ができるなどのメリットが紹介された。

有田講師が防具のつけ方について指導を行い、その後、軽米講師より基本となる技の段階的な指導について実技を交えて解説が行われた。続いて、山田講師がごく簡単な試合として、「気剣体の一致」を意識した判定試合を行った。5 人組に分かれて 3 人の審判がそれぞれ気・剣・体を意識して見ることで、判定をわかりやすくしている。判定試合を行った後は、それぞれどこがよかったのか、どうすればよくなるのかを話し合う時間を設けることが大事であると説明した。

午後は、軽米講師が段階的な指導法から、面抜き胴の指導を行った。山田講師が面抜き胴を使ったごく簡単な試合の紹介をし、防具の結束方法にも触れた。

最後に指導と評価について、軽米講師が講義を行い、「剣道の授業では、技はあくまでも教材であり、技の習得を目指すのではなく、技を通して攻防の展開ができるようになることが目標である」と述べた。

閉講式では、軽米講師が講評を行い、西山龍之介<sup>せいえい</sup>成穎 中学校教諭が講師への謝辞を述べ、辻勝之佐賀県学校剣道連盟理事長が主管県挨拶、網代講師が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。